

令和5年度 学力向上推進計画2

学校種	中	学校名	砥部町立 砥部中学校
学校番号	41	校長氏名	藤井 忍
期間	R5.10~R6.3	学力向上推進主任氏名	折本 崇

Plan 計画

【現在の子供の姿】

- 落ち着いて授業に取り組むことができる。
- 基礎・基本の学力が不十分である。
- 自分の思いや考えを表現する力が弱い。

<p>身に付けさせたい資質・能力</p> <p>ア 学力の基盤となる基礎的・基本的な知識や技能</p> <p>イ 自分の考えや気持ち、学びを言葉にして伝える力</p>		<p>具体的な取組 ※ICT機器、EILSの活用</p> <p>ア 校内タイピングコンテストを開催して、タイピングスピードの向上を図る。また、どの教科においてもEILSを活用したドリルやテストを学期に1回以上実施する。</p> <p>イ 毎時間、学びを振り返る「リフレクションタイム」を設定して、「授業が分かる」生徒の割合を増やす。</p> <p>ア 砥部町「家庭学習の進め方」をリニューアルして、生徒と保護者に配付し家庭が学びの環境になるよう呼び掛ける。</p> <p>イ 授業中の「リフレクションタイム」や短学活での「問答ゲーム」を通して、生徒のコミュニケーション能力を育む。</p>
--	--	---

2 Do 実践

全教職員による共通実践

Check 評価 ※ICT機器、EILSの活用

【成果○と課題●】

- 授業を受け持つ60%の教員がEILSの活用にチャレンジすることができた。また、校内タイピングコンテストを3回実施したことで、生徒のタイピングスピードの向上が見られた。
- 各授業の終末に学びを振り返る「リフレクションタイム」を80%以上の教員が取り組み、指導の改善に活かすことができた。
- 12月に全校生徒を対象に実施した学習状況アンケートにおいて、75%の生徒が「授業が分かる」と肯定的な回答をしたが、前回よりもポイントが下がった。
- 「問答ゲーム」を通して、ペアやグループでの話し合い活動が活発になるとともに、自分の考えを正しい言葉遣いで順序立てて話すことのできる生徒が少しずつ見られるようになった。
- 12月の生徒アンケートで1、2年生の生徒の60%が平日の家庭学習時間が1時間未満であるという結果となり、家庭学習の充実が喫緊の課題である。

Action 改善案(課題をより明確にし、取組や評価方法の検証・改善)

4 ★「授業が分かる」と思える生徒の割合を増やすために、eライブラリの活用による個に応じた宿題・課題の検討を進め、個別最適な学びと協働的な学びの実現に取り組みたい。

→ 次サイクルへ